



東日本大震災 復興への手しごと

CONTENTS

もりおか暮らし

羅針盤プロ

ジ

工

ク

復興ぞうきんプロジェクト縫い手のこころを伝える

「何もすることがないことが本当に辛い」。震災から1か月ほどが経過したころ、内陸の温泉旅館で避難生活をされている方々のこんな声が聞こえてきました。自宅を失い、大切な身内を亡くされた方々にとって、時間があることがどれほど辛いことなのかを思うと、心が締め付けられるようでした。みなさんの悲痛な心情を知り、何かお手伝いできることはないかと話し合ってでてきたのが「手しごと」でした。

手軽にできて、でき上がったものが何かの役に 立てられるものをと考え、タオルでぞうきんを手 縫いしていただく取り組みを始めました。針を 持っている間はいくらか辛い気持ちも和らいでい ただけたのだと思います。みなさんとても喜んで ぞうきんを縫ってくださいました。

今もぞうきんの製作は続いています。さらに手 しごとの範囲は、当初思ってもいなかったような 広がりを見せることになりました。

10 4

和ぐるみは岩手の忘れられた地域資源

和ぐるみプロジェクト

すべて自分たちで木を育てるところから編むところまで、

くるみかごプロジェクト

盛岡から被災地を応援

もりおか町家物語館 大正蔵

28

手しごとが広げるもの・つなぐもの

30

22

16

風ぞうきんプロジェクト



ぞうきんに付ける「元気に 岩手!!」のタグは、漫画家・ しりあがり寿さんが描いて くれたもの。

うと考えました。

誰 ŧ 参 のづくりし 加できる

達からの情報発信が必要になる。 ばかりだけど、今後は被災した方 できる手しごとに取り組もう」。 発信のツールとして、避難所でも 「いまは全国から支援を受ける

震災発生から1か月が経った

向けて販売することで、「みなさ らおうという案。全国から届い 話し合いました。そこで出たの になる支援や活動方針について 数の班に分かれてこれから必要 ランティアスタッフが集まり、複 資支援を中心に行なっていたボ 2011年4月10日。 当時は物 といったメッセージを発信しよ せん」「前を向こうとしています」 た物資でつくったものを全国に んの気持ちは無駄になっていま 被災者に手しごとをしても

> ぞ 間 かいしな 広 Ġ

限定しません。大事にしたのは、 できること』でした。 『人を選ばないこと、誰もが参加 ない人も参加しやすく、買う人も た。ぞうきんなら裁縫が得意では め。また、間口の広さも魅力でし になっていたタオルを活用するた として大量に届いていて余り気味 ん」を選んだのは、当時支援物資 製作するものとして「ぞうき



現在も続くタオルや糸の支援

SAYE MATE NO

愛真館ロビーの一角に置いた タオルと裁縫道具

る人が出てきました。 り組める形にすることで参加す にしました。気負わず、気軽に取 た人が好きなときに縫えるよう ルと裁縫道具を置いて、気の向い 愛真館では、ロビーの一角にタオ 時避難所となっていた温泉旅館・ たかもしれない」と反省し、当 断られてしまいました。「早まっ てもそんな心境になれない」と になるものをつくるなんて、と 初に相談した避難所では、「商品 な想いで企画を立てましたが、最 てくれるはず。前に進む最初の 歩になるかもしれない。そん 縫い物は気を紛らわし

気軽に参加好きなときに やることのない避難所暮ら

たな役目

4

なが

デザ

イナ

新

「点在する被災者同士をつなぐ」

愛真館の避難所としての役割は 2011年6月いっぱいで終了 2011年6月いっぱいで終了 しました。それまでは気分転換の手 ことに。それまでは気分転換の手 ことに。それまでは気分転換の手 たが、縫った方の収入となるよ したが、縫った方の収入となるよ

また、被災者同士のつながりを つくるため、集まって交流する日 つくるため、集まって交流する日 同市内に点在していたため、出会 うきっかけや集まる場が求められ ていたのです。

他分です。
を安さす。
を安さす。
を安さする『もりおか復興支援セが設置する『もりおか復興支援センター』。沿岸部から盛岡市へ避が設置する『もりおか復興支援センター』。沿岸部から盛岡市へ避める場となったのは、盛岡市

了しています)(物資支援は 2012 年6月で終



もりおか復興支援センターで水曜日に開催しているサロンチーム名は「紡ぎ組」。回を重ねるごとに打ち解け、あたたかなコミュニティが生まれています。

でうきんのデザインは縫い手の を性に委ねられています。白い布 な直線や曲線が踊っていたり、花 な連線や曲線が踊っていたり、花 や蝶が描かれていたりと、一枚一 枚表情が異なります。縫い手のみ んなは、互いの作品から刺激を受 けながら、「次はどんな模様にし よう?」と楽しんで縫っている様 よう?」と楽しんで縫っている様

> 売こつ半分が逢い手つらこへ度信する媒体となっています。 ています」というメッセージを発

売上の半分が縫い手のもとへ渡ります。残りの半分は、材料費や プロジェクトの運営費に充てられます。今月は何枚まで、と指定を しながら、縫ってもらったものは





菊池勝子 宮古市出身

築 100 年の自宅も店も倉庫もすべて流されたあの日の事を、今も思い出すことがあります。ぞうきん縫いがすっかり暮らしに定着しているので、この活動がこれからも続くのが願いです。



熊谷美紀 宮古市在住

ぞうきんを手にした時に喜んでもらえるようなデザインを、と考えながら縫っています。この活動のおかげで、年齢の違いや障害の有無など関係なく交流できているのが嬉しいです。



本宮くに大槌町出身

とにかく買ってくださることがありがたくて、帯にお礼の一言を書くのをこれまで欠かしたことがないです。紡ぎサロンに来てみんなとおしゃべりするのが何よりの楽しみです。



阿部チワ 大槌町出身

盛岡に住む次女家族の近くに夫婦で落ち着き、ぞうきんを縫ったり、畑の世話をしたり。畑でとれた枝豆やトマト、お花をサロンに持参することもあるよ。おかげさまで楽しんでます。

わたしたち復興ぞうきん 「紡ぎ組」です



佐々木夕力 宮古市在住

月1回縫ったぞうきんを持って行って、これで今月のお米を買うお金ができたなあって考えます。真っすぐしか縫えないけど、お客さん飽きちゃうかなあ…刺しゅうがんばってみますね。



浦辺佳子 山田町出身

辛いことや大変なことは考えないようにしています。こうして体があることがありがたい。今は紡ぎサロンに来ることと童謡・唱歌の会に行くのが楽しみ。特別なものは何もいりません。



澤田郁子 大槌町出身

次の一枚はどんなデザインにしよう?と考えながら縫うのは楽しい。 丸などの小さな型紙を並べたり重ねたりするとひょっとアイディアが浮かんだりね。どんな人が使ってくれてるのかなあ。



高橋正子 宮城県山元町出身

引っ越して4年目の家が全壊したけど、くよくよしたってなるようにしかならないよね。おと一さんが盛岡で始めたたこ焼き屋の飾り見てタコの刺しゅうしてみたけど、どう?沿岸らしさも出ていいかなって思って。



高須賀カツ子 宮城県石巻市出身

本当にここでのおしゃべりが支えになってます。石巻が懐かしいなんて、申し訳なくて言えない。今の生活で充分。本当は神経質で人と交わるのが苦手だったんだけど、考えを変えたんです。悲しみは押しやって明るい方を向きます。



小原千恵 陸前高田市出身

和裁をしていた母は刺しゅうも得意で、自然と小さい頃から教わっていたことが今生きてるのかな。土地勘も友達もいない盛岡でこの活動に出会い、サロンで先輩たちの昔語りを聞くのが楽しいです。



河村光子 大槌町出身

危機一髪、1分遅ければ助からなかった体験をふいに思い出すこともあるけれど、手しごとは気持ちが落ち着いて何よりの息抜きになる。復興ぞうきんを通じていろんな経験ができて、すごくありがたく思っています。





佐々順子 釜石市出身

「釜石に帰りたい、でも帰っても何もない」と毎日言っていた母を看取り、今は天気のいい日は畑に出て、天気の悪い日はぞうきん縫いにいそしむ日々。おかげさまで穏やかに暮らしています。



新沼チヨ子 大船渡市出身

ここに来て、陸前高田で津 波で娘さんを亡くした人と泣 きながら語り合ったことが忘 れられない。バスで1時間か かるところに引っ越しちゃっ たけど、サロンに来るのが何 よりの楽しみだから。この活 動を勧めてくれた息子に感謝 です。



佐藤節子 大船渡市在住

月1回盛岡の病院予約を紡ぎサロンの日に合わせ、大船渡から4時間余りかけて、縫い上げたぞうきんを持って通ってます。紡ぎ組の仲間とのお茶とおしゃべりが楽しいの。また来月ね!



岩崎友子 佐々奈緒(スタッフ) 祇園寺広子、本宮愛子、伊藤玲子、山田るみ子 (ボランティア)

2011年の紡ぎサロン発足当時から、紡ぎサロンはボランティアスタッフとともに運営してきました。広報紙「紡ぎ組だより」の制作にもなくてはならない存在です!



隔月発行の紡ぎ組だより

タオル・糸・デザイン・・・十人十色

縫い手の想いとぬくもりが伝わる手縫いのぞうきんたち



復興ぞうきんができるまで

佐々順子さんに製作風景をみせてもらいました





合言葉は「今日は人の 身、明日は我が身」です。

宇津野泰子 西元和枝 井上令子 千葉県流山市

地元の総合病院・東葛病院のご協力の下、毎月月命日近辺で販売するようになってからまもなく8年になります。私たちの健康と家庭の事情が許す限り、続けていこうねと言い合っています。



少しでも早く復興し ますように

甘露寺 静岡県小山町

お盆のお墓参りにいらっしゃった方に 復興ぞうきんをお渡しして、毎年のお盆 毎に新しいものを使っていただくように しています。



京都に住む叔母も大 ファンです

倉田明美 大分県宇佐市

宇佐やお隣の中津市にあるカフェや雑貨屋 さんで復興ぞうきんを置いてもらっていま す。最初にこの活動を始めた方と復興ぞうき んを通じて知り合い、ご病気になったその方 から活動を引き継いで現在に至ります。

全国に広がる

私

た

全 国 2012 年に被 んを購入し、子

東洋英和女学院小学部母の会 東京都港区

2012年に被災地支援のひとつとして復興ぞうきんを購入し、子供たちに配るようになったのが始まりです。毎年ご家庭に呼びかけてタオルや糸を集めたり、クリスマスの時期には手作りのオーナメントを送らせていただいたりもしております。縫い手の皆さんが、ひと針ひと針心を込めて縫い上げてくださったぞうきんを手にすると、心もぽかぽか温かくなります。



活動のパートのひとつを受け持たせていただき光栄です。

今橋克寿 岩手県田野畑村

宮古サロンで仕上がった製品を盛岡へ、盛岡からは材料のタオルを宮古へ運んでいます。この沿岸と内陸間の東西リレーは、復興から持続可能な未来への長いながい駅伝。襷が途切れないように、安全第一、無理は禁物。共に学び合う寛容精神で、市民の手で繋ぎ続けていきたいですね。

ル援 団

帯の名前、手書きのメッセージ、 デザイン…販売する私たちに は、すべていとおしいです。

カトリック由比ガ浜教会 神奈川県鎌倉市



教会のバザーやガレージセールの折に「今回もいただくわ」と教会内外の方が求めて下さると、心の風船がふわっと膨らみ、励まされている喜びを感じ、気力が湧いてきます。

復興ぞうきん信州応援団 長野県高森町・豊丘村



無理をせず、できる範囲で未永く応 援を続けようとの想いで活動してい ます。 長野県南部の高森町を中心に女性7名で立ち上げた「復興ぞうきん信州応援団」。近隣のカフェ、パン屋さんなどに協力をお願いし販売していただき、また、お店以外にも、あるお寺では、清掃などに来ていただいた方々へのお礼としてまとめて購入していただいたり、町内の吉田河原保育園では、園児たちがかわいい手でお掃除に使ってくれていますよ。

そして、もっと多くの方にこのぞうきんを知ってもらおうと 2014年からチャリティーコンサートを始め、回を重ね9回目となります。会場では縫い手の皆さんを身近に感じていただこうと、紡ぎ組だよりのパネル展示も。「かわいいもんで、もったいなくて使えんのな」「そんなこと言わんように、ボロボロになるまで使って、また買ってや」なんて会話が弾みます。

どんどんと復興ぞうきんのつながり、縁が広がっていくことを感じています。それを糧に長く応援させていただきたいと思います。

もりおか暮らし

羅針盤プロジェク

盛岡の復興支援拠点 「番屋」

盛岡からの復興支援の拠点のひとつになったのが鉈屋町にある旧とつになったのが鉈屋町にある旧 として鉈屋町のみなさんのご厚意 で貸していただいたものです。で貸していますが、建物の横には昔なっていますが、建物の横には昔なっていますが、建物の横には昔を偲ぶ火の見櫓が立っています。使用許可を得て、借りてきた鍵 使用許可を得て、借りてきた鍵

信月記言を得了。信息できれる 活動が始まりました。3月23日の 活動が始まりました。3月23日の ことでした。数日すると日本各地 から支援の物資が番屋宛てに届く ようになりました。市民ボラン ようになりました。市民ボラン ティアが集まり物資を仕分けて被 災地に届ける一方、盛岡に避難し た方々に生活に必要な品々をお渡

び合うこともあれば、悲報に涙す坊々が思いがけず再会し無事を喜場でもありました。被災された場でもありました。被災された

る様子も度々みられました。やがて、番屋に来れば誰かに会えるかもしれないと訪れる人たちもいて賑わいました。運営はボランティアが行っていましたが、被災された方がいち早くボランティされた方がいち早くボラがに動がに手をあげ、仕分けや応対に携わって下さったことにも頭が下がりました。



ちいさなミシン

番屋の二階の休憩スペースに家 を、糸やハサミ、布、ミシンを流 を、糸やハサミ、布、ミシンを流 をの二階の休憩スペースに家

「まさか、ここでこの裁ち鋏に出会えるとは思っていなかった」という方がいました。本格的な衣という方がいました。本格的な衣という方がいました。本格的な衣とれ絶望していたとのことでした。自分が永年愛用していた物とた。自分が永年愛用していた物とた。自分が永年愛用していた物とた。自分が永年愛用して送って下さり、ふさわしい方に手渡されてさり、ふさわしい方に手渡されていきました。

支援したいと思う人達も方法が分大震災。被災された方はもちろん、大震災。被災された方はもちろん、保証では、手芸を楽しむ人が沢山手しごと、手芸を楽しむ人が沢山手しごと、手芸を楽しむ人が沢山が高いることを知り、針仕事を通じていることを知り、針仕事を通じていることを知り、針仕事を通じている。

針盤を選びました。明日を照らすような名前を付た。明日を照らすような名前を付た。明日を照らすような名前を付

好きということでした。
ト。共通していたのは手しごとがで始めたささやかなプロジェク

ます。 4つの転換期を経て現在に至り9年目となった羅針盤の活動は





/ 復興ぞうきん / 羅針盤 / 和ぐるみ / くるみかご / 大正蔵

針仕事で癒やされる

故郷、そして震災について。 おいしい食べ物、盛岡での暮らし、 がら語り合いました。季節の話、 んで、それぞれが手しごとをしな た。もりおか復興支援センターの じて仲間の輪を広げた日々でし 一階に設置された長テーブルを囲 震災から1年ほどは針仕事を通

いる、興味が持てないときは自分 は話し、聞いていたい人は聞いて とみんながお互い「傾聴」のボラ ンティアになれます。話したい人 どなたでも、いつでも来たいと 手しごとをしながら座っている

> 動は心地良い空間と時間でした。 あって手作りしましょうという活 きに来てください、お互いに教え なっていきました。新しいことを チュニックなどを制作するように さり、着物からバッグやベスト、 スクールで講師をされている下 田弘子さんが講習会を開いて下 た。東京と神奈川のカルチャー た着物等からリメークも始めまし 支援物資のなかで需要のなかっ

出店しました。 2012年12月にはもりおか歴史 習得することは皆の喜びでした。 文化館のクリスマスマーケットに



感謝を伝える

年がたっていました。 2013年3月、 けて発送することができました。 まいますが、お礼状と共に手し せん。ごく一部の方になってし ろうか」という話がきこえてくる 多くの人に助けられたよ。もう十 るみんなから「自分たちは本当に ごとで作りためた品々を全国に向 お送り下さった全員にとはいきま ようになりました。善意の物資を 分たちも何かお返しができないだ 分支援していただいたから、自 震災から時を経て、参加してい 震災から2





全国へお礼を伝える

技術を磨く 丁寧な仕 事

ミシン担当、仕上げ担当と分かれ での挑戦でした。アイロン担当 初めての経験でしたので、手探り を頂きました。その数2500 プ店員さんのエプロン製作の依頼 の活動費を助成して下さった に歓声と拍手がわき起こりまし 枚が縫い終わったときにはフロア てこつこつと縫い上げ、最後の一 LUSH JAPAN からショッ 2013年夏に 規格通りに正確に作ることは は 羅 針 盤

賃金を頂くには相応の品質が

させて頂き、LUSH JAPAN り通すことができました。製作 れたことは大変嬉しいことでした。 の真っ白いエプロンにSAVE 求められます。丁寧な仕事をや IWATE 羅針盤のタグが付けら





やりがい 新しいことを学ぶ幸せ





熟練者がコートやチュニックに仕立 どき、洗い、縫製工場で働いてきた がおられます。羅針盤では丁寧にほ 用して下さいと送ってくださる方々 ローチ、布はがきをつくります。 てます。ご支援のお気持ちを無駄に しないよう、切れ端ではバッグやブ 2014年、SAVE IWATE 思い出のこもった着物や帯を再利

がけています。 けるよう、シンプルなデザインを心 物から作るので末永くご愛用いただ の商品はすべて一点もの。貴重な着 常設販売出来るようになり、一段と が運営する盛岡市内の店舗で商品を 心をこめて製作しています。羅針盤

思っていたの。これはご縁ね」と、 スはパーティやコンサート用にお求 く、一番の人気商品。訪問着のドレ ています。 ンバーのやりがい、生きがいになっ ご購入いただくことも度々あり、メ めいただいています。旅行中の方が 「ちょうど着物のドレスが欲しいと 大島紬で作るコートは軽くて暖か



もりおか暮らし・・・ お陰様で楽しく暮らしています



震災から9年がたち、羅針盤のメンバーも目指す 事も少しずつ変化してきました。現在は年齢55歳から85歳(平均年齢74歳)の10人と3人のボランティアが活動をしています。

盛岡の暮らしにも馴染み、町内会の会合に出席したり、知り合ったご近所さんと温泉に出かけたり、張り合いのある日々を過ごしています。その中でも楽しいのは羅針盤です。集まって針仕事をして、持ち寄った昼食を済ませ、再び針仕事。あちこちでお喋りしながらも手は休みません。

「んだがら~」沿岸の言い回しに笑いがあふれます。

佐藤貞子(釜石市出身)

羅針盤があるお陰で生きがいを感じてるの。 リュックを背負って出かけると、近所の人に「行くところがあってうらやましい」って言われるよ。 知り合いに差し上げたいと思って作ってる。家で 作るときはテレビも消して静かなところで集中し て。布が好きなの。夜中までやってるよ。

湊洋子(陸前高田市出身)

外に出ることを心がけてる。あちこちの花を見たり、絵画展を見たり、作るのは得意じゃないけど、着物をほぐすのは大好き、ほぐしが沢山あると張り切ります。ここに来て皆さんとおしゃべりすることがとっても楽しいの。震災という同じ経験をした人達の集まりだからね。盛岡市内に建つ災害公営住宅の完成が待ち遠しい。今は施設にいる夫と入居したいです。

高橋正子(宮城県山元町出身)

夫と一緒に仕事もしています。家でも何かしら 作ったり、動いたりしていることが多いね。じっ としてられないの。羅針盤に来るのはとっても楽 しい。

里舘ひとみ(大槌町出身)

みなさんに可愛がってもらって楽しい。新しい ものを何かしら考えてきれいに仕上げると達成感 があります。しばらく介護の時期があったけど時 間を見つけて針を持つと無心になれたから。ブ ローチを作るため栃の実やどんぐりを拾いに行き ます。みんなを誘って。もっともっと上達したい です。

金田アイ子(釜石市出身)

若い時、和裁と洋裁を少し習っただけ、後は見よう見まねで覚えたの。主人がバス会社に勤めてたからそこの車掌さん達に頼まれて、私服のスーツやコート縫ってたの。羅針盤は楽しい。なんでも作るのが好きで盛岡にきて木目込み人形も習ってるよ。

菊池勝子(宮古市出身)

色んな人に出会えて親しくなれて楽しい。お弁 当を用意して、仲間のお誕生会をしたり、お茶会 や 3.11 のイベントのための灯籠作りをしたり、 忙しいのがいいね。生きがいになっています。

三浦テフ子(釜石市出身)

震災後70才まで縫製工場で働いていました。 羅針盤では姉妹のように言いたいこと言いあって、遠慮もなくてね。ここがなければ本音で話すこともないから感謝しています。おしゃべりしながら洋服を縫って、デザインや配色を相談して、それが売れたって聞くとまた嬉しい。

高橋美苗 武田映子 富沢節子

(2013年からのボランティア)

私達を仲間として迎え入れて頂き感謝しています。豊富な話題の中で教えて頂く事が多々あります。着物のこと、料理のこと、さすが主婦!盛り上がります。

一緒に楽しい時間を過ごさせて頂きありがとうございます。





藍染チュニック



羽織からチュニック



大島紬からコート



紬からチュニック



紬から ロングカーディガン



紬からコート



羽織からコート



留袖からドレス

大島紬からチュニック ummummummumm



からのリメ

留め袖・訪問着からドレス 細からコート、チュニック 小紋からチュニック、マフラー 小紋からアラウス、 ベスト スヌード ボルからスーパッグ ボッグ 大漁旗から大小パッグ 大漁旗からバッグ



アンティークな帯揚げから

東袋、 スヌード、 懐紙入れ、 ニードケース、 ヨガ用クッション、

布はがき

ひな

ポーチ、

巾着、

幸せ袋

マフラー

品

ネクタイから数寄屋袋、 布のブローチ、 ちりめん細工、 布で作った鉄瓶 ビーズのブロー ルのコー ンズからクッション、バッ のし袋入れ、 トからテディベア、 チ、 木の実のブロー パッチワー エコバッ お

薬入れ

ヘッグ

酒袋

残り布も大切に



古銭のミニポーチ



木の実のブローチ



布で作った鉄瓶



ビーズブローチ



栃の実ストラップ



布はがき

ころだね。

慣れたら盛岡は本当に良いと 言います。不思議なものだね。 かったと、みんな口を揃えて ことになるとは思ってもいな まさか晩年を盛岡で暮らす



幸せ袋

助

うに助け合いながら日々を渦 が出会い、昔からの友人のよ り合うことのなかった人たち でしたが、震災がなければ知 り難く嬉しくなります。 針盤のバッグを持った方や ごしています。 ることもあります。本当に有 コートを着た方をお見かけす この頃、盛岡の街の中で羅 震災は大変辛く悲しいこと



佐藤貞子 作「さるぼぼ」

風船かずらの種子を顔にして作るさるぼぼ。南天の枝に9匹並べるこ とから難を転じる、苦難去る(猿)など、縁起がよいといわれます。

和ぐるみプロジェクト



オニグルミ 名前にオニと冠するほど ごつごつとして堅い。

和

のおいしさは最上級だということで る」と表現していました。和ぐるみ おいしい味のことを「くるみ味がす が少なくなりましたが、岩手県では みがあります。最近は耳にすること 和ぐるみはコクがあって深いうま

産で、そのほとんどがカリフォルニ れなくなっていました。日本の市場 らず、面倒だからと家庭でも食べら 争に勝てないから市場にあまり出回 価格が洋ぐるみの3~4倍に。競 出す作業が大変で、むき実にすると ぐるみは洋ぐるみに比べて実を取り に出回るくるみの9%以上が外国 しかし、殻が堅くて実が小さい和 食べたことは か?

こ 仕の **事**面 に倒 + な るは カヽ ŧ

!

です。 良く洗って乾燥させ、金槌で殻を割 り、千枚通しで実を取り出し、ピン 作業が複雑で機械化はとても不可能 といくつもの工程を必要とします。 セットで殻の破片を抜き取って…… とってもおいしい和ぐるみです むき実の状態までにするには、



が、逆に言えばそこに仕事が生まれ

大変手間のかかる和ぐるみです

ることにもつながります。

ヒメグルミ つるんとして、可愛らしい フォルム。オニグルミと比べ て殻が薄く割りやすい。



岩 和手 は ۷" る 4 ഗ 宝 庫

三陸

ഗ 和 取 ŋ ۷,

る 致

4

ます

買

では川沿いを中心にいたるところ も生産量が多いといえます。岩手 の東北のなかでも岩手県はもっと は東北地方に集中しています。そ 別にして、 にくるみの群落があります。 くるみの栽培が盛んな長野県を 天然の和ぐるみの生産



川沿いに生える くるみの木



くるみ拾い 東京や静岡から来たボ ランティアの一行が盛 岡市郊外でくるみ拾い をしてくれました。

題でした。収入の道が途絶えたまま、 収入支援につなげられないかと考え されるようになったのが経済的な問 過したお盆前、 出したのが「和ぐるみプロジェクト」 こうした問題に対し、いくらかでも いられない状況になってきました。 いつまでも失業保険だけに頼っては うやく落ち着きました。一方で懸念 了して被災した方々の住む場所がよ 震災がおきてから約5か月が経 仮設住宅の建設が完

で呼びかけていただいたところもあ ラジオを通じて呼びかけたり、広報 をつくって沿岸部に配布しました。 す。2011年の夏すぎ、チラシ グルミ 1㎏ 300 円で買い取りま オニグルミ 1㎏250円、ヒメ

知数でしたが、蓋を開けてみると、 どれだけの反応があるか全く未

> れたこともありました。 から「これで病院に行ける」と喜ば 行って現金を手渡したおばあちゃん なったかと思います。買い取りに 額となり、 できる仕事でした。平均すると1 だけなので、何もかも失った人でも 道具も必要なく、歩いて拾い集める い取り依頼が集まりました。特別な 重さにして23トン分の和ぐるみの買 330人の方から約230万個 人あたり 2 万円程度の買い取り金 いくらかの収入支援に

ので、全て買い取りました。 り買い取りません」なんて言えない は」とびっくりしました。「やっぱ ません。「まさかこんなに集まると とたくさん実を成らせたのかもしれ じて、くるみの木が「これは大変だ」 作でした。3月に大きな揺れを感 震災のあった年は和ぐるみが大豊





毎日集まって作業することになり たところ10名ほどの応募があり、 たい方がいたらぜひ」と呼びかけ 事として和ぐるみ加工に取り組み から避難してきていました。「仕 盛岡市には、 1500人ほどの方が被災地 東日本大震災のあ

むき実の検品 検品は根気のいる作業。 ピンセットを使い、目視 でむき実に混入する小 さな殻を取り除いてい きます。



くるみも殻も同じような色をしている ので混入した小さな殻の破片を見つける のは大変ですが、黙々と作業するのは苦 にならないので、私はこの仕事に向いて いると思っています。

検品担当 佐々木治子



山田町出身

き実作業を行っています。 る美人」の6人のメンバーが、 業所を建てました。「くるみ工房く だ塩くるみ」を独自に商品化してい のだ塩を隠し味に使ったお菓子「の を受け、野田村に和ぐるみ加工の作 「村に仕事を生み出したい」と相談 また、和ぐるみを黒糖でくるみ、 田 村で暮らす女性の方々 から む

和ぐるみのむき実作業をするよ うになって、いろんなことを勉強 させてもらいました。みんな集 まって作業するのを楽しみにして います。こうした集いの場ができ てとても良かったです。

2017年の5月には和ぐるみを 題材にした NHK のテレビ番組「超 絶 凄ワザ!」で取り上げられま した。収録のためにみんなで名古

屋のスタジオまで行ったことが強 く印象に残っています。いまは独 自に原材料を確保したり、和ぐる みのお菓子の改良にも取り組み始 めています。ゆくゆくは独り立ち できるところまでいきたいと思い ます。

くるみ工房くる美人 代表 中原郁子 野田村

ます。製法は盛岡の老舗菓子店から

、ウハウを教えてもらいました。



「超絶 凄ワザ!」収録のようす

三陸沿岸 野 カヅ 田 村 ŧ

広 カド

商品化して支えてくれる人たちが出て来てくれました

() よい よ販売へ!

仲間入りしました。 べる『くるみそば』がメニューに 厚なくるみのタレでもりそばを食 に。老舗そば屋「東家」では、濃 も「おいしい!」と喜ぶ人気商品 甘みで食感も楽しく、誰が食べて くった『和くるみ糖』は、上品な くるみを醤油と砂糖で包んでつ れました。和菓子店の「竹芳」が ぐるみを使った商品を開発してく ほど出荷。盛岡市内の商店も、和 2012年。 入してくれて、初年度は8トン 和 ぐるみの販 全国の支援者が購 売開始 は





大槌 赤武 酒造とコラボ ഗ

ぐるみでつくったお酒はほかにな 発しました。代表銘柄『浜娘』に、 と一緒に、『くるみのおさけ』を開 く、まったりとした独特の味わいが 完成するまでには苦労しました。和 の潰し方によって上手く溶けなかっ だろう」と企画しましたが、くるみ ならお米からできる日本酒にも合う てもお米と相性がいいのです。それ 米粉のお菓子に使ったりします。と にあわせたり、お餅のタレにしたり、 キュールです。「和ぐるみはごはん ペーストした和ぐるみを合わせたリ し盛岡で蔵を再建した「赤武酒造 話題を呼びました。 たり沈殿してしまったりと、商品が 2014年には、大槌町で被災

守られていることは、短所であると同 くと、その土地ならではの珍しい食材 ため、健康面でも期待されています。 の美味しさを伝えられたらと思ってい 食材なので、もっとたくさんの人にこ 時に長所でもあります。可能性のある 数年単位で保存が利きます。硬い殻に 珍しい上に最高においしい。しかも、 があります。その中でも、和ぐるみは、 理法が伝えられてきました。地方に行 んにかけたり。岩手ではさまざまな調 り、山菜、味噌漬け大根と和えてごは メガ3脂肪酸」を豊富に含んでいる サラにする効果があると言われる「オ があってフルーティです。血液をサラ ため、しつこさやえぐみがなく、コク るみに比べて油分もタンニンも少ない しにくいという特徴があります。洋ぐ 和ぐるみは、空気に触れないため酸化 和ぐるみを巻き寿司の中に入れた 硬い殻の中に隙間なく詰まっている



和ぐるみペーストを練り だコクのあるソフト -ムに、刻んだ和ぐ るみをトッピングした 『和ぐるみソフト』。

、復興ぞうきん / 羅針盤 / 和ぐるみ / くるみかご / 大正蔵

短所は長所



工芸品として





殻を輪切りにしたもの

和ぐるみは、一粒の重さが約10gで、そのうち食べられる10gで、そのうち食べられる実の部分はわずか2gほど。実の部分はわずか2gほど。ったいないと、ストラップやもったいないと、ストラップやもったいないと、ストラッポーでである。





和ぐるみのオイル



殻を使った園路 歩くと音がするので防犯にも なります。

ガーデニングや炭へも活用

なっています。

も長持ちすることから人気の素材とたウッドチップやバークチップより

食用オイルや化粧品、あるいは木製き用オイルや化粧品、あるいは木製を用オイルや化粧品、あるいは大製食用オイルや化粧品、あるいは大製を用オイルや化粧品、あるいは木製を用オイルや化粧品、あるいは木製

家具や食器などの塗料としても考え

炭化した和ぐるみ 実の入ったものは油が滲むた めなのか、光沢が出ます。



グとは、植物を植えた地表面を覆

い、土の乾燥や流出、雑草を防ぐも

しても販売しています。マルチン

ニングに使う天然のマルチング材と

ト用の素材としているほか、ガーデ

形の良い殻を選りすぐり、

のです。和ぐるみの殼は見た目が素

:で可愛らしく、木材や樹皮を使っ

割ってきれいに洗った殻

なっています。

がら、震災のことを知る機会と

あります。子ども達には楽しみなてワークショップを行うことも

割って食べる体験と組み合わせ

ふれながら、

和ぐるみを自分で



和ぐるみの殻を使ったカスタネット

震災を伝えるために

ひと粒の和ぐるみから

和ぐるみの殻と殻を叩くとカンカンととてもいい音がします。殻が固いことや殻が中空構造になっているためだと思います。この特徴を生かしてカスタネットを簡単に作ることができます。段ボールをふたつ折りにし、その内側に2個の和ぐるみの殻をボンドで貼りつけるだけです。このカスタネットを手に持ち、2枚の段ボールをはさむと、殻と殻がぶつかっていい音が響きます。

や小学校の子ども達にはとても

カスタネットづくりは幼稚園

人気があります。震災のことに







和ぐるみのクラフトづくりや料理教室と合わせて震災時のお話などをしています。

木を育てるところから編むと

くるみかごっすべて自分たちで

こプロジェクト

仕事に!くるみかごを

にもすぐれた活用方法があります。るみには実や殻だけでなくその樹皮岩手の隠れた地域資源である和ぐ

り組みを始めることにしました。
くるみの樹皮を使ったかご細工の取
くるみの樹皮を使ったかご細工の取
ごとだけでなく、男性にもむいてい

素朴で落ち着いた魅力 天然のくるみかごは、東北を中 心に生産され、愛されています。



廣田さんから指導を受ける

ば友達ができるかなと思って」とのこと。 は知り合いがいないから、習い事をすれ 義さんに参加の動機を聞くと、「盛岡に の女性です。初期から参加している湊雅 からと参加した盛岡在住の男性で、1 ラバラ。他の2人は純粋に楽しそうだ 町で被災し、盛岡にやってきた男性です。 れ替わりがあり、現在のつくり手は6 ました。メンバーは活動を続ける中で入 相談すると、快く講師を引き受けてくれ た人たちの仕事にできないだろうか」と 津夫さん。「くるみかごづくりを被災し ました。講師は盛岡のかご職人、廣田美 る講習会を開催。被災して盛岡にきた 元の仕事は漁師、自衛隊員、会社員とバ 人。そのうちの 3 人は、沿岸部の山田 人は最近になって仲間入りした大槌出身 2012年春に「くるみかご」を作 人の方とボランティア 2 人が受講し

乾くと縮むから、隙間 無く仕上げるのが大変



面白いでしょう

ものをつくるって



の2階にあり、作り手は好きな ときに来ることができるように

SAVE IWATEの事務所

工

房は盛岡市中

野

口にある

好

きな

とき

(=

編 む

道具も自分たちで工夫して開発して います。

隙間も芸術、 原間も云側、 なんて言ってるけど(笑)』 ○【三 III三



技術も必要だけど、 半分は材料で決まるな

全員 ました。教室は好評で順番待ちの状 かごづくりの教室を開くまでになり 全員初心者からのスタートでした 技術も上達し、一般市民向けに カヅ 初 う つ 者 かゝ 9 Ġ ഗ



山に行くときからね、質のいい 皮はツバつけとくの (笑)

番難しいのは材料集

d

から自分たちで行っています。ころもありますが、ここではくるころもありますが、ここではくる

くるみの木そのものは川のそば

持ち手の部分は壊れやすいの

て伐らせてもらっています。木がて伐らせてもらっています。木がて伐らせてもらっています。木がす。個人で山や牧場を持っているす。個人で山や牧場を持っている状する時期は春から初夏にかけにいくらでも生えているので、河にいくらでも生えているので、河にいくらでも生えているので、河

単に皮が剥けます。を入れるとあとは手でつるっと簡げているため、カッターで切れ目

で、丈夫な山ぶどうの樹皮を使用しています。山ぶどうのツルはカラマツなどの大木に絡まっているので、できるだけ長く皮を採るため梯子をかけて高いところへ登り、切り落とすという大変な作業り、切り落とすという大変な作業をかけるのは 6 月下旬からになります。しかも、山ぶどうの樹皮が剥けるのは 6 月下旬から7 月上旬にかけてのわずか半月ほどしかありません。



くるみの皮を剥く。



山ぶどうもたくさん採れました。 みんなにっこり。



くるみの木は丈夫なので根本で切ってもすぐ

気をつけて! 山ぶどうは高い所からツルを採ります。



います。 2700本のくるみの木を育てて めることもありません。現在は約 植えました。一定の間隔で植えた苗 れて苗になるまで育て、それを畑に という苦い経験も。これに懲りて、 ため他の植物が絡みついて樹皮を痛 は育ちも良く、除草管理もしやすい 2017年はポットに土と実を入 ど植えたのにひとつも芽を出さない べられてしまったのか 300 個ほ みることも試しましたが、 2 0 1 4 くるみの実をそのまま地面に埋めて 1500本の苗木を購入して植栽。 裁培を始めました。3年間 質 0) い い か 樹 5 皮 は を採 < る 動物に食 る た

培も始めました

栽

様取した樹皮は裏返しにして丸め、風通しが良い場所に干して しっかり乾燥させます。乾燥させ ておけばシーズンに採取した大量 の樹皮はいつまでも保存しておけ の樹ではいつまでも保存しておけ

てしまいます。この隙間をなくす皮が縮むため編み目に隙間ができだ、編み上がったかごが乾くと樹柔らかくしてから編みます。た柔的ない。

のかごを製作します。 ようにするため、少し編んだとこようにするため、少し編んだとことを使って網目の隙間を詰めていきます。こうした作業の繰り返しによって、隙間のない美しい仕上がりになるのです。隙間なく作れがりになるのです。隙間なく作れがりになるのです。隙間なく作れるまでにかかる時間は 2 週間かるまでにかかる時間は 2 週間から 2 か月ほど。同時並行で複数のかごを製作します。

































湊雅義 山田町出身

山田町から盛岡に来ていた佐々 木勝正さんの漁網アート教室に 行ったのが始まりです。佐々木さ ん、沼里さんがすでにかご細工を 始めていたのでそれについて行き ました。

かご細工は面白い。最初に編み 方の基本は教えてもらったが、あ とは自分で考えてでき上がってい くのがいい。作ったのを他の人に 見てもらい、作ってほしいと頼ま れるようになるとさらに楽しく なってきます。とくに宣伝をして いる訳ではないが、口伝えで注文 が入ってきます。これまで 100 個以上製作したうちの 30 個くら いがオーダー。好みや用途を聞い てそれに応じて製作。すべて気に 入ってもらえています。

数をこなそうとすると手抜きになってしまうので今ぐらいの作り方がちょうどいい。盛岡に来てこんな活動ができるとは思ってもいなかったことです。マイペースで元気なうちは続けたい。防災講座も受講したりしていて、これからも防災には関係を持ちたいと思います。



原田武二 山田町で被災

山田町で暮らしていた時から湊さんとは知り合いでしたが、盛岡に移ってからも顔を合わせる機会があり、お誘いを受けたのがかご細工を始めるきっかけです。それまでは写真を趣味として仲間と共に撮影スポットを探し回っていました。今はすっかりかご細工にのめり込み、冬の時期には週5~6日は工房に通っています。

元々の仕事は合金鉄を作るというものづくりに携わっていたこともあり、ものを作ることの面白さを感じています。

かご細工に出会ったおかげでメリハリのある暮らしができ満足しています。自分の作ったかごでひとりでも喜んでくれている人がいると思うと嬉しいです。

くるみの樹皮をそのまま使った かごはひとつひとつ違った表情を 示し奥深さを感じさせます。

まだまだ満足できるものはできませんが、工房のみなさんから刺激を頂きながら日々研鑚に励み、工芸展などに出品することを夢見て取り組んでいきたいと思っています。



盛田泰男 盛岡市出身

湊さんに誘われてかご細工を始めました。材料の調達から自分たちでやっているというのは驚きでした。材料採りが難しい。良い皮だと思って採ってきても使ってみるとダメだったり。どこに行ってもくるみの木が生えていると気になり、いろんなかごも良く見るようになりました。

今迄もものづくりは色々やりま したが、かご細工はやればやるほ ど難しい。今は週に6日工房に 通っています。仲間が次々と良い 作品を作るのでとても刺激にな り、先輩の技術に一歩でも近づ きたいと思っています。被災され た方から当時の話を聞くと本当に 大変な思いをされたんだと思いま す。作品展を通じて知り合いと なった西和賀の方とも協力しなが らかご細工を伸ばしていきたいで す。漁網とコラボした良い作品を 作りたいと思っています。



沼里捷夫 山田町出身

活動に関わっていましたが、かご 細工の取り組みを始めるという ことで、材料採りに誘われたのが 最初です。かご細工はやり始める ととても奥が深い。とくに難しい のは持ち手の部分をきれい巻く ことです。

夏場はシルバー人材センターの 仕事をしたりボランティアで盛岡 市内にある被災学生寮「しぇあ ハート村」の畑を手伝うことが多 いので、かご細工をするのは 11

物資支援などのボランティア 月下旬から4月ころまで。また サンマ漁やマグロ漁の手伝いもし ていて年間30日くらいは海にで ています。ナイロンの紐に釣り針 をくくりつける仕事も夜に行って います。

> ただ家でゴロゴロしていても しょうがないので、何かしら手を 動かしたり体を動かしたりしてい たい。かご細工は気持ちが集中で き、そのことに没頭できます。み んなのようにきれいに作れるよう 今後も続けていきたいです。



小林重彦 盛岡市出身

佐々木勝正さんの漁網アートの 教室に行ったのがきっかけで、か ご細工のことも知り、面白そうだ と思って始めるようになりまし た。やり始めるととても難しいで す。1本1本の木によって樹皮の 色合いが違うのでそろえるのが思 うようにいかない。狙ったとおり にできた時はうれしいです。

作り方は先輩のみなさんに聞い て作っています。被災された方は

震災で大変だったことをあまり口 にされない。気を使われているの だと思います。被災された方に応 援してもらっている状況で申しわ けないくらいです。まだ一番の 新入りで見習いの立場です。去年 までは釣りに割いている時間が多 かったですが、今年はかご細工に 多く時間をかけます。普通のかご が普通に作れるようになりたいと 思っています。

作品にはそれぞれ作家の 個性が光ります





菊池正子 大槌町出身

ものを作るのが好きでかご づくりに参加しました。難 しくてまだうまくできない ことが多いですが、「楽しい 一!!」となるまで続けたい と思っています。

ここは良いお仲間がいるの がいいですね。

盛岡から沿岸を応援

蔵

26年に「懐かしの賑わいに出会 手川』の旧岩手川鉈屋町工場を 行われていた歴史ある蔵元『岩 明治から平成にかけて酒造りが う」をコンセプトにオープンし 盛岡市がリニューアルし、平成 もりおか町家物語館 は

SAVE IWATE が運営し 階「時空(とき)の商店街」は 三陸の復興を応援したいとの そのなかにある大正蔵の一

揃えて販売しています。 品や、沿岸の新しい商品を取り の冊子で紹介してきた手しごと 思いから、盛岡市をはじめとし た岩手県内の名産品に加え、こ

らしてください。 こえてきますよ。ぜひ遊びにい で、テンポの良い沿岸訛りが聞 沿岸出身のスタッフもいるの



もりおか町家物語館 大正蔵

〒 020-0827 岩手県盛岡市鉈屋町 10-8 TEL019-601-6250 FAX019-601-6251 [開場時間]

夏季: 4月~10月 9:00~19:00

※入館は 18:30 まで

冬季:11月~ 3月10:00~17:00 休業日 每月第4火曜日 • 年末年始

URL http://saveiwate.jp/tokinosyotengai/



私たちがお待ちしています



藤澤貴美子大槌町出身

生まれは大槌です。18才で東京に出て、40年 以上住んでいましたが、震災前に夫が亡くなった ことと、母や姉が被災して盛岡に避難してきたこ とをきっかけに移り住みました。

ここで働いて楽しいと思うのは、商品の説明をして、お客さんが納得して買ってくれた時。「やったあ!」と心の中でガッツポーズしちゃいます。ここでは三陸のものや、復興支援グッズを販売しているのでやりがいがあります。

仕事も趣味(卓球)も、あと、馬が好きなので 八幡様の流鏑馬やチャグチャグ馬コなど、盛岡ラ イフを楽しんでいます。



尾形美和子 釜石市出身

ここでの仕事の楽しさは、お客さんと話せること。釜石ではずっと洋品店を営んでいたので、もともと接客するのは大好き。盛岡にはあまり知り合いがいなかったけれど、お店にやってくる地元の人、観光客、あるいは釜石から来た人など、様々な方と交流しています。

この店のそばには古くからのお寺があるので、 楽しく過ごせるよう守られている気がしていま す。



手しごとが広げるもの・つなげるもの

東日本大震災からの復興のなかで、非常にたくさんの手しごとが各地で生まれました。家も仕事も人のつながりも何もかも失ってしまったなかで、できることは手しごとだったということだと思います。働き者の東北人という風土もあったのでしょう。手しごとを通して、何度も折れかけた心を励ましたり、日々の暮らしに張りがでてきたり、支えあう仲間づくりにもつなげていくことができました。作ったものをお金をだして買ってもらうことは大きな自信にもなり、幾ばくかの暮らしの足しにもなりました。被災した方々にとって、手しごとは大きな支えのひとつだと言うことができます。

「復興ぞうきんプロジェクト」は、誰にでもできる手しごとであることに意味があります。それと同時に創造する楽しみも加味したものでした。何種類もあるカラフルな糸を使い、一針一針手縫いをしながら思い描いた図柄を自由に仕上げていきます。グラデーションがかかった幾何学模様であったり、季節の風物詩を刺繍したり、支援に対する感謝を文字にしたりしたものが作られました。

「羅針盤プロジェクト」での着物リメークは、裁縫好きの女性に打ってつけの活動です。絹に特有の柔らかな触り心地を楽しみ着物に描かれている伝統的な美しい和柄のデザインを目にしているだけでも心が和んできます。元々は非常に高価であったはずの着物をほどき、ハサミを入れて新しいものを作り出すということは、普通とは違う面白味が感じられるようです。

「和ぐるみプロジェクト」は地道な活動です。川原などに落ちている和ぐるみを拾い集めるには、ただ黙々と腰をかがめて一粒拾い、また腰をかがめて一粒拾うという作業を繰り返します。むき実作業は一粒一粒、片方の手の指で和ぐるみをつまみ、もう片方の手で握った金づちを振り下ろして固い殻を割ります。割れた殻から中の実を掘り出すのも手作業ですし、さらにほじくりだしたむき実のたくさんの粒のなかから細かな殻の破片を取り除くのも根気がいる作業です。眠っている和ぐるみはまだ相当量あるはずで、可能性を秘めたプロジェクトと考えています。

かご細工は最近人気が高まっていてびっくりするほどです。被災者の方々がかご教室の講師役をするまでに上達してきていて、その教室が人気で受講したい人のキャンセル待ちが30人ほどに達しています。かごの生産も需要に追い付いていないというのが現状です。

針を持つ手の一針一針、樹皮を組みあげていく一編み一編み、和ぐるみの小さな一粒一粒。そのひとつひとつに大震災で経験したいろいろな思いが込められています。余剰となったタオル、タンスに眠っていた着物、どこにでも生えているオニグルミ、面倒がられて埋もれていた和ぐるみ。ともすればあまり価値がないと思われがちなものだからこそ、手間を惜しまず思いを込めていくことで、どこにもない新たな価値が生み出されてくるのだと思います。

これまで本当にたくさんの皆さんからご支援をいただいてきました。改めて心からの感謝を申しあげたいと思います。本当にありがとうございました。

震災はとても悲しいできごとでしたが、それをきっかけにして生まれた手しごとが復興の一助となるようこれからも活動を続けていきます。

 一般社団法人
 SAVEIWATE

 理事長
 寺井良夫



2020年3月発行

発 行:一般社団法人 SAVE IWATE

編 集:寺井良夫 武田利都子 岩崎友子 寺井律子

制作チーム(50音順)

阿部チワ 伊藤玲子 井上令子 今橋克寿 宇津野泰子 浦辺佳子 尾形美和子 小原千恵 金田アイ子 河村光子 祇園寺広子 菊池勝子 菊池正子 熊谷美紀 倉田明美 小林重彦 佐々木タカ 佐々木治子 佐々順子 佐々奈緒 佐藤貞子 佐藤節子 里舘ひとみ 澤田郁子 高須賀カツ子 高橋正子 高橋美苗 武田映子 田代惠美子 富沢節子 中原郁子 新沼チヨ子 西元和枝 沼里捷夫 原田武二 藤澤貴美子 三浦テフ子 湊雅義 湊洋子 本宮愛子 本宮くに 盛田泰男 山田るみ子

カトリック由比ガ浜教会 甘露寺 くるみ工房くる美人 東洋英和女学院小学部母の会 復興ぞうきん信州応援団

デザイン: 武田利都子

取材・編集協力:東北マニュファクチュール・ストーリー実行委員会

